



## 少子化対策

河原井 始（クラブ21）

質問 少子化対策への考え方はどうか。

（子育て支援センター）



答弁 少子化対策は国家的な問題であり、効果がすぐ現れるものではなく、中・長期的に行わなければならないと考えている。社会保障制度の充実と環境整備を行う上で、あらゆる分野から考え、若い人が結婚し子供を産み育てる中で不安のない、若い人が集まって来るまちづくりを目指していきたい。そのために、平成十九年度導入の「病児・病後児保育事業」また「仕事と子育てのための雇用環境の整備」に視点を置いた施策を講じていきたい。

## 認知症の現状と対策

田島 忠一（愛・桐生）

質問 認知症の人が利用できる施設数と定数はどうなっているか。また、今後の予定はどうか。

答弁 施設については、認知症対応型共同生活介護いわゆるグループホームであるが、現在市内に九施設十二ユニットで、定員は百八人である。今後の予定としては、平成十九年度・二十年度に各一施設一ユニットづつが整備され、定員は十八人増加の予定である。



（市役所）

また、認知症対応型通所介護、いわゆるデイサービスについては市内に二か所で定員が各十二人で合計二十四人分である。

## 地域バイオマスの利活用

周東 照二（公明クラブ）

質問 経済産業省「バイオマス等未活用エネルギー事業調査事業」の利用や、間伐材など地域バイオマスの利活用の推進について、どのように考えるか。

答弁 同調査事業については、現在作成中の「桐生地域新エネルギービジョン」の中で、本市の新エネルギー全般にわたる潜在的なエネルギー量などの調査を実施するので、その必要性を検討していきたい。また、再生可能な山林資源の利活用には期待しており、今後、県や関係団体との連携や模索、産学官の推進などを通じて取り組みたい。



（市内の山林）

## 有害鳥獣対策

新井 達夫（愛・桐生）

質問 農林業経営や住民生活を安心して営むために有害鳥獣対策について、どのように行っているのか。

答弁 有害鳥獣対策は、

猟友会と連携してオリヤワナによる捕獲や猟銃による捕獲事業などを行っている。また、黒保根町と隣接する袈裟丸山の鳥獣保護区の見直しについては、野生鳥獣による被害が多いため、様々な意見を聞く中で群馬県などに働きかけたい。なお、



（捕獲されたイノシシ）

猟友会への支援は、実情に沿った柔軟な支援や猟友会の高齢化などを踏まえた捕獲体制を検討し、有害鳥獣対策を考えていきたい。

## 観光について

細谷 昌弘（クラブ21）

質問 桐生八木節まつりで行う「まゆ玉ころがし」

（まゆ玉ころがし大会）



を全日本大会として開催できないか。また、おりひめバスを使ってありのままの桐生を観光客に見てもらおう「すっぴん桐生の大冒険」を実施できないか。

答弁 桐生八木節まつりの主要行事のまゆ玉ころがし大会を全国規模にすることは、集客面で有効であり可能と考えられるので、まゆ玉ころがし大会の実行委員会にその旨を伝え、協力していきたい。なお、「すっぴん桐生の大冒険」については、今後の観光施策を構築する上で参考としたい。

## 携帯電話メール配信

小野田 淳二（愛・桐生）

質問 緊急情報を市民の携帯電話のメールを配信す

（携帯電話）



る行政サービスについて、児童・生徒の安全確保や災害などに有効と思われるが導入を考えているか。

答弁 携帯電話のメールを活用した情報配信サービスは、学校周辺の不審者情報や緊急対応の伝達のほか、学級閉鎖など急な保護者への連絡など有効な情報伝達手段と認識している。しかし、導入には個人情報の管理や情報過多による不安感の増大などの課題や、配信ソフトなど経費面の問題もあるため、先進地の情報収集など先行研究を深めたい。



## 新健康フロンティア戦略

石井 秀子（友和会）

**質問** 女性専用の生活習慣病指導プログラムなどの必要性及び子供の健康づくりの取り組みはどうか。

**答弁** コレスステロールや中性脂肪の基準値は、女性の場合年代により血中脂質値が変化しやすいため、女性の身体的特徴を踏まえた健康教育が必要と新健康フロンティア戦略の中にあるので、この健康教育について今後検討したい。また、乳・幼児健康診査において

（保健福祉会館）



肥満傾向と判定された子供には、栄養士や保健師が保護者からお話を伺い、改善する方法を示して実行するようお願いしている。

## 千網谷戸遺跡

星野 定利（愛・桐生）

**質問** 川内町三丁目にある千網谷戸遺跡は、学術的（千網谷戸遺跡）



に貴重な縄文時代晩期を代表する重要文化財であるが、見学できる施設は無い。現在、地権者と地元住民が保存と施設建設に協力機運のある中、千網谷戸遺跡を世に出して桐生を世界にアピールする考えはあるのか。

**答弁** 千網谷戸遺跡の史跡の指定について、地権者に史跡指定の同意は得られていないが、千網谷戸遺跡を広めようとする運動が行われていることは、地元で進展していると思われるので、その運動に沿って、よく検討して深めていきたい。

## 公正な職務執行

小滝 芳江（クラブ21）

**質問** 全国的に職員などへの口利きによる不正事件が起きているが、公正な職務執行を行うため、特定のな利益誘導の防止策について、どう考えているのか。

**答弁** 職員の倫理行動については、桐生市職員倫理規定を定めているほか、外部からの不当要求に対して要綱を定めて対処しており、今後も、倫理意識の自覚強化の体制づくりに努めたい。なお、公正な職務執行は、

（市役所）



職員に課せられた使命であり、できるだけ一人が関わることではなく組織的に対応し、対応の記録を残すことも検討していきたい。

## ノコギリ屋根工場群の活用

荒木 恵司（愛・桐生）

**質問** ノコギリ屋根工場をまちづくりの視点から活用（ノコギリ屋根）



用し、「織都桐生」と「球都桐生」を同時に感じられるノコギリ屋根工場を活用した「球都桐生野球博物館」についてどう考えているか。

**答弁** 近代の工場形態を残す貴重な建築物であるノコギリ屋根工場を活用した「球都桐生野球博物館」については、施設の所有者との調整や維持管理など解決すべき課題も多いが、桐生には野球に関する貴重な資料が多くあり、「球都桐生」と「織都桐生」の歴史を物語るものと捉えているので、引き続き検討を進めたい。

## 市立幼稚園について

庭山 由紀（薫風会）

**質問** 市立幼稚園の三歳児保育を四園で試験的に実施するのはなく、全園で実施できないのか。また、平成十年に開園されたばかりの南幼稚園を廃園にするのは問題ではないのか。

**答弁** 市立幼稚園には未知の分野である三歳児保育は、園児を安全に育てるための経験や情報の不足に考慮し、試験的に導入したい。なお、行政施策はその置かれた状況下でなすべき最善

（南幼稚園）



の施策を考え実施されるもので、南幼稚園の建設は、当時の最善の判断だったと考えており、園舎の有効的な活用を検討していきたい。

## 子育て支援

森山 享大（愛・桐生）

**質問** 仮称群馬県子育て応援プレミアムカード事業（市内の保育園）



の進ちよく状況はどうか。

**答弁** プレミアムカード事業は、ぐんまちよい得キッズバスポート事業に名称変更し十一月十八日に始まる。対象者は、中学生までの子供・妊娠中の人がいる世帯で、協賛ステッカーを掲示した協賛店舗において「ぐんまちよいバスポート」を提示することで、割引やポイントなどの特典が受けられる。なお、同事業の目的は地域・企業、行政が一体となって子育てを応援すること、桐生市でもその目的に沿った支援を行う。

## 時間預託制度

岡部 信一郎(クラブ21)

**質問** 相互の助け合いの中で、ボランティア活動を行った時間に応じた点数により、将来その点数分のボランティアを受けられる時間預託制度を導入し、介護保険料や介護サービスの利用料などの支払いに活用できないか。

**答弁** 時間預託制度は、NPOや任意団体などに登録した会員が、利用会員と協力会員として活動する相互扶助の活動であると認識

している。時間預託制度はすばらしい活動であるが、導入については関係機関を含め、今後の研究課題と考えていきたい。

(市民活動推進センター)



## マニユフェスト

井田 泰彦(クラブ21)

**質問** 事業全体の取り組みとして、行財政改革の断

(市役所)



行をどう行っていくのか。

**答弁** 各事業全体の取り組み方は多種あり、来年度予算を考える中で検討しなければならぬが、ゼロベースとして見直し、新たにスタートするという意識を持ち、色々な人から意見を聞いて、もう一度全体で一丸となってこの厳しい財政状況の中でどのように桐生市を運営していくか、また将来に向け、どうあるべきかを考えていかなければならず、様々な角度から検討し、これからの桐生市をしっかりとやって行きたい。

## 県境道路

西牧 秀乗(友和会)

**質問** 境野町の境橋や産業道路の延伸、及び松原橋の右岸、左岸の道路延伸の取り組みについて、どのように考えているのか。

**答弁** 境橋については、架け替えや整備を桐生土木事務所にお願いをし、産業開発道路については、都市計画マスタープランにおいても位置付けており、今後も足利市と調整を図ってきたい。また、松原橋兩岸の道路延伸については地理

(境橋)



的条件や技術的においても多くの困難が予想されるが、国土交通省などの関係機関と連携を図りながら、研究していきたい。

## 再生资源持ち去り禁止

寺口 正宣(公明クラブ)

**質問** 再生资源持ち去り禁止に関する条例の施行後、成果はあったのか。

**答弁** 本条例は七月より施行され、ごみステーションに出された再生资源は桐生市に所有権があり、勝手に収集、運搬してはならないもので、施行後の持ち去りは減っていると思われるが、必要に応じてパトロールを実施したい。また、再生资源収集量は、対前年比で一・三倍、新聞紙は三

(リサイクルセンター)



## 広沢地区の道路対策

周藤 雅彦(クラブ21)

**質問** 北関東自動車道及び中通り大橋線の開通、側道の開通に伴う周辺道路の交通量の変化や安全性をどう考えているのか。また、渡良瀬川右岸側堤防下道路の拡幅をまちづくり交付金事業としてできないか。

**答弁** 広沢地区の交通量調査を県道、市道を含めて近々に行う考えである。また、周辺道路の安全性の構築については、歩道築造や水路の暗きよ化などできる

(広沢町の道路)



## 後期高齢者医療保険制度

中田 米蔵(日本共産党)

**質問** 後期高齢者医療保険制度の仕組みと相違点、及び国保の滞納世帯と滞納者についてはどうなるのか。

**答弁** 本制度は平成二十年度から施行され、七十五歳以上の後期高齢者を対象に都道府県単位で創設される独立した医療制度である。現行制度との相違点は七十五歳以上の方は広域連合の県内均一の保険料を負担することにあり、所得水準に応じて七割、五割、二割の

(保険年金課)



軽減措置が講じられる。また、国保税の滞納は新制度に引き継ぐことはないが、債務は残るので、滞納状況に変動はないと考える。

ところから実施して、安全性向上に努めている。なお、まちづくり交付金事業による道路整備が可能かどうか検討中である。



## 危険な信号機交差点の解消

笹井 重俊（日本共産党）

**質問** 市内の交差点、信号機において、交通実情に対応できていない場所が見受けられるが、どのように対応するのか。

**答弁** 相生町一丁目十四番地付近の交差点については、通常の信号機に変更する趣旨を桐生警察署に伝えたい。また、新宿三丁目県道桐生新田木崎線と新宿通り交差点については、二つの交差点が接近し過ぎていたので信号機の設置は難しい。

（相生町一丁目の交差点）



く、車両停止禁止ゾーンの路面表示の補修や注意喚起の看板の設置を土木事務所や地元町会と協議し、検討していきたい。

## 黒保根選挙区当選議員

七月二十二日の市議会議員補欠選挙（黒保根選挙区）で当選した議員は、次のとおりです。



新井 達夫  
（愛・桐生）

- 常任委員会  
産業経済委員会
- 特別委員会  
交通対策調査特別委員会

## 平成18年度

# 決算を認定

平成18年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算は、それぞれ賛成多数で認定しました。

同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会（委員16人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。

総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

### 合併の効果と現状の問題点は

合併の効果は、利用できる公共施設の増加、工業適地選定や定住促進施策など多様な施策が可能になるなどのスケールメリットによる効果が挙げられる。問題点については、一般的に規模が大きくなるときめ細かな行政サービスができなくなるなどといわれているが、特にそのような話しは聞いていない。なお、飛び地の

解消の取り組みについては、七月に広域調整室を設置し、みどり市と協同して行政事務現況調査を行っている。

### 経常収支比率については

経常収支比率は、市税など毎年経常的に収入があり自由に使える財源が、人件費や扶助費など経常的に支出される費用に充当される割合を見る指標で、財政構造の弾力性を判断する指標となっており、八十八パー

### ごみ減量対策については

桐生市のごみの減量化施策への取り組みは、「桐生市ごみ減量化推進協議会」を中心に、官民一体となった運動を展開しており、生

### 障害者福祉については

ごみ処理容器の購入補助のほか、買い物袋持参運動の推進、再生资源集団回収事業の推進などを行っている。特に、平成十八年度の集団回収事業については、登録団体数百六十三団体で、実施回数七百八十六回、総回収量二千五百六十三トンに上り、ごみの減量とリサイクルに貢献しており、登録団体数、実施回数、総回収量とも増加傾向にある。

障害者自立支援法は、平成十八年四月から一部施行、十月からの全面施行となり、原則一割負担導入に伴う利用者負担の増加などから不安の声が上がり、桐生市でも説明会を開催して円滑な施行に努めてきた。特に地域生活支援事業においては、負担をより少なくするため移動支援や日中一時支援においては積極的な給付に心掛け、相談支援やコミュニケーション支援についても福祉サービスを利用するための基盤づくりと捉え、整備を進めてきた。今後、利用しやすいサービス提供に努めていきたい。